

No.	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
8	61のまちなか巡り ～表示板を活用した歴史再発見～	宇都宮共和大学 都市・アメニティ研究会	
		畠山 健	宇都宮共和大学 シティライフ学部
		指導教員 氏 名	山島 哲夫

## 【1. 提案の要旨】

平成 20 年、宇都宮市はまちづくりの基本となる「第 5 次宇都宮市総合計画」（通称：V-Plan）を策定した。その中で「みんなに選ばれるまち」を目指し、宇都宮市が持つブランド力を向上させる必要性を打ち出している。

そのため、当研究会では、ブランド力向上のための新たな取組として、宇都宮に存在する資源の活用方法を探ることも有効なのではないかと考えた。そこで今回はまちなかの 61 ヶ所に設置されている「旧町名表示板」に着目した。私たちの通う宇都宮共和大学の目の前に大工町の旧町名表示板が設置してあり、活用方法を考えたのがきっかけだ。

旧町名表示板には、江戸時代、宇都宮が城下町だった頃の町名とまちの様子が説明されている。今回はこの旧町名表示板を活用し、ウォークラリーの実施やマップの作成、更に表示板に親しみを持ってもらうためのグッズ作成などを提案する。そこからまちなかの回遊性向上や歴史の再発見へとつなげ、宇都宮のブランド力向上に役立てたい。

提案にあたり、実際に宇都宮のまちなかを歩いて旧町名表示板について調査した。また学生に対するアンケートや市の担当部署の 1 つである文化課へのヒアリングを実施した。それらを踏まえ、提案を行う。

## 【2. 提案の目標】

ブランド育成のためには、人々にまちの成り立ちを知ってもらい、まちに愛着を持ってもらうことが必要である。そのためのツールとして今ある旧町名表示板を活用しようとするのが目標である。

宇都宮の旧町名表示板は全部で 61 基（重複したものを含めると 65 基）設置されている。この旧町名表示板を活用し、宇都宮の歴史の面白さに気づいてもらうためのしかけをつくったり、まちなかに回遊性を持たせたりすることもできる。それが宇都宮のブランドを育成することにつながると考える。

### 【3. 旧町名表示板の概要】

今回の提案の対象である「旧町名表示板」について説明する。

#### 3.1 文化財表示板等設置計画とその目的

宇都宮のまちなかには、宇都宮の歴史や文化財の魅力をより市民に知ってもらうために、3種類の表示板が設置してある。今回とりあげる旧町名表示板を始めとして、指定文化財表示板、名所・旧跡表示板がある。これらは「宇都宮市文化財表示板等設置計画」に基づき、文化課と建築課が中心になって平成7年～9年にかけて設置された。その目的として次の3点が挙げられている。

- 宇都宮市民の心に歴史を通じての郷土愛を醸成する
- 歴史・文化財の伝承に貢献する
- 魅力ある町づくりの一環となる

このように市でも存在意義を明確に定めており、活用されることが期待されている。

#### 3.2 旧町名表示板

宇都宮がかつて城下町だったエリアには旧町名表示板が61ヶ所設置されている。**写真1**は宇都宮共和大学の前にある大工町の旧町名表示板である。

旧町名表示板には上から順にエリアシンボルマーク、名称、解説文、宇都宮の城下図と現在地、設置場所の現在の住所が書かれている。解説文には、そのまちの地名の由来や当時の人の暮らしぶりが記されている。

旧町名表示板の大きさは、高さ180cm、幅22.5cm、厚さ5cmであり、このデザインは61ヶ所すべて共通である。



写真1 大工町の旧町名表示板

以下は大工町と肴町の旧町名表示板に書かれている解説文である。

##### 《大工町》

宇都宮城を築くとき、この付近に大工を住ませたことから、大工町の名が付けられたといえます。江戸時代には穀物屋・干鰯屋（ほしかや）・鍛冶屋・荒物屋など、いろいろな商人や職人が住んでいました。

##### 《肴町》

宇都宮城主本多正純の町割り替えにより、六軒町にあった魚屋を、大町の一部であったこの地に移したので、肴町という名がつけられました。1624年（寛永元年）、この町の魚屋は城下の魚売りの独占権を得たので、毎年城主に塩引きの鮭や鱈などを献上することになりました。

なお、こうした旧町名表示板に書かれている解説文は全て、宇都宮市文化課のホームページ「宇都宮の歴史と文化財」に掲載されている。

#### 【4. 現状の分析と課題】

当研究会では旧町名表示板の認知度を把握するため、学生に対するアンケートを実施した。また、実際にまちなかを歩き旧町名表示板の現状を調査したほか、文化課へヒアリング・取材を行った。それらを踏まえ、現状と課題を整理する。

##### 4.1 学生に対する認知調査

宇都宮共和大学の学生約 80 名に旧町名表示板についてのアンケート調査を実施した。

アンケート用紙に旧町名表示板の**写真 2**を載せその認知度を調査した。すると、次のような結果になった。



写真 2 アンケートで用いた写真

(問 1)

宇都宮の市内には、右のような看板がいろいろなところにあります。あなたはこの看板を見たことがありますか。

- ① 見たことがある : 70.5%
- ② 見たことがない : 29.5%

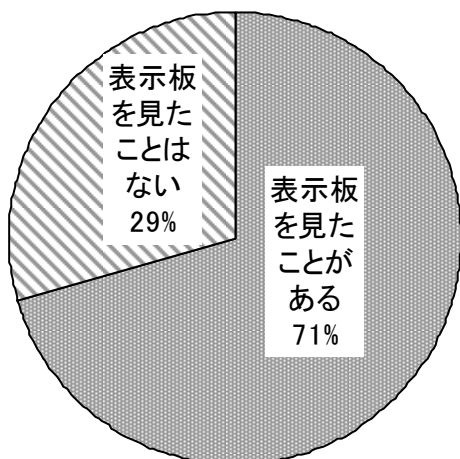


図 1

(問 2)

この看板は、何だと思えますか。

- ① 道路標識のひとつ : 7.7%
- ② 近所の店の広告 : 6.4%
- ③ 昔の町名の紹介 : 68.0%
- ④ 街路樹の説明 : 2.6%
- ⑤ 現住所を示す看板 : 15.4%

表示板の認知度

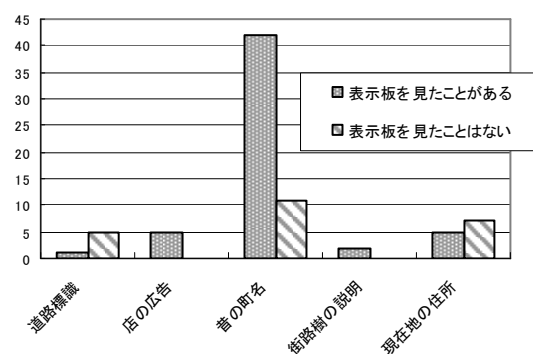


図 2

## 《考察》

全体の約7割の学生が見たことがあると答えた。逆に言えば大学の目の前にあるにもかかわらず、3割の人は見たことがないということになる。認知度は高いと言えるが、気づきにくい現状にあることが推測できる。

図2はその旧町名表示板の内容の認知度を調査したものである。「見たことがある」と答えた人の約7割が、表示板が旧町名を表示しているものと知っていることがわかる。さらに「見たことはない」と答えた人の中にも旧町名の表示板だと考える人は多かった。旧町名表示板と考えるのに違和感がないことがわかる。

## 4.2 現状と課題

まち歩きを行った結果と文化課ヒアリングを行った結果を踏まえ、旧町名表示板の現状と課題を整理する。

### 4.2.1 老朽化の問題

#### 《現状》

当研究会は「旧町名表示板を探そうウォークラリー」と題して学生を集めてまち歩きを行い、設置してある旧町名表示板の状態を調査した。その中に一部、以下のような旧町名表示板があることがわかった。



写真3 文字が消えている状態



写真4 台座との隙間

**写真3**は八日市場の旧町名表示板である。本来なら「八日市場」の文字が書いてあるはずだが、雨風や日光にさらされて文字が消えてしまい何と書かれているかわからない。

**写真4**は大町の旧町名表示板である。旧町名表示板の表示部分が歪み、台座との間に隙間ができてしまっている。これでは表示板が外れてしまう恐れがある。この旧町名表示板は車や人も通る道路に面しているため、自動車や人が通行している最中に倒れてきたら危険である。

もちろん、これら旧町名表示板の全てがそういった状態にあるわけではないが、上記のようなものがいくつかあり、修繕が必要なものがあることがわかった。

## 《課題》

これらの問題を解決するためには、現状の旧町名表示板に改善策を講じる必要がある。

旧町名表示板自体の価格は1基 40万～50万円ほどし、それに加え設置するための工事費や人件費がかかる。場所により多少異なるが、1基設置するのに100万円程度の費用が必要になる（文化課のヒアリングより）。従って、旧町名表示板が61基で6000万円程度の費用がかかっていることになる。そのため、旧町名表示板が老朽化してきているからと言って、土台から表示板まで全体を作り直し、再設置することは費用の面から困難であり、より費用が少なくすむ改善策が求められる。

文化課では**写真3**、**写真4**で説明した旧町名表示板への対応策として、文字が書かれている表示板の部分のみを新規に作成し、既存の旧町名表示板の上から貼り付ける検討をしているとのことである。これによって全ての旧町名表示板を設置しなおすより少ない費用でリニューアルすることができる。

### 4.2.2 存在感の問題

#### 《現状》

私たちは地図をもとに旧町名表示板を探しながら宇都宮のまちなかを歩いたが、何ヶ所かで表示板が見つけにくい所があった。旧町名表示板の存在感が薄いのではないかと考えられる。



写真5 紺屋町の旧町名表示板



写真6 押切町の旧町名表示板

**写真5**は紺屋町の旧町名表示板とその周辺の様子である。写真の左側に旧町名表示板があるが、周囲の設置物等との関係で目立たない。また、細い通りに設置してある旧町名表示板では存在感の薄いものもある。

**写真6**は押切町の旧町名表示板が設置してある場所の様子である。木の陰にあり、少し離れると全く目立たなくなる。実際に歩いて旧町名表示板を探してもすぐには見つけることができなかった。

また、夜になると暗くなり見えなくなることや、字が小さく近くに寄らないと見えにくいことが問題として挙げられた。

ほかにも車の交通量の多い場所に設置してあるものがあり、旧町名表示板を調査して少し危険を感じることもあった。

#### 《課題》

目立たず、見つけにくいことで「探す楽しみ」はあるかもしれないが、それでは旧町名表示板に気づいてもらえない可能性がある。旧町名表示板の存在をよりわかりやすく、目に入りやすくするための工夫が必要である。

交通量の多い道路に面している所は、旧町名表示板の設置場所を見直す必要があるが、それら全てを設置しなおしては費用がかかり困難である。特に交通量が多くて危険がある場所のみで対応すれば十分であると考えられる。

また、旧町名表示板の設置場所を示した MAP を簡単に入手することができないので、利用しやすい MAP 作成し、配布することが必要である。(詳しくは【5. 施策事業の提案】で述べる。)

### 4.2.3 活用の問題

#### 《現状》

宇都宮市では、「文化財巡り」と称した、まち歩き等のイベントを過去に開催している。地域ごとにテーマ性を持たせたモデルコースを設定し、歩け歩け大会などを実施している。解説者としてボランティアの人などの協力の下、宇都宮の歴史を市民に感じてもらいながらまちを歩く。モデルコースの例として、奥州街道・日光街道コースや県指定史跡長岡百穴を中心とした古墳群を訪ねるコース、大谷で産出する大谷石やその景観の美しさを訪れるコースなどがある。(文化課ヒアリングより)

#### 《課題》

文化財を利用したウォークラリーは開催されているが、旧町名表示板を主としたウォークラリーなどのイベントは開催されていない。61基も旧町名表示板があるなら活用すべきではないだろうか。

また、文化課では、10年、20年先を見据えて若い人が、まちやその歴史などに興味を持ってもらうために、表示板を活用したいという意向を有している。

### 4.3 課題のまとめ

これまでの検討で明らかになった現状の問題点と課題を述べる。

現状の問題点は以下の通りである。

- ・ 旧町名表示板が十分に活用されていない
- ・ 長い間、雨風や日光にさらされて文字が消えてしまい何と書かれているかわからない旧町名表示板がある
- ・ 台座との間に隙間ができてしまっている旧町名表示板がある

- ・ 設置場所を再考すべき旧町名表示板がある
- ・ ライトがないため夜間には読むことができない
- ・ 解説文の文字が小さく読みづらい
- ・ 旧町名表示板の設置場所を示した利用しやすい MAP がない

これらの現状を踏まえ、課題をまとめると以下の通りになる。

- ・ 旧町名表示板の存在をよりわかりやすく、目に入りやすくするための工夫が必要である
- ・ 修繕等の必要なもののメンテナンスが必要である
- ・ 利用しやすい MAP の作成が必要である
- ・ 旧町名表示板に興味を持ってもらうためのイベント等を実施する必要がある
- ・ 旧町名表示板をより一層活用するためのしかけが必要である

これらの課題を踏まえ、提案を行う。

## 【5. 施策事業の提案】

### 5.1 具体的な提案

旧町名表示板を活用して宇都宮の歴史を再発見するためには、【4. 現状の分析と課題】で挙げた課題を解決する必要がある。そこで当研究会では「表示板に注目」「表示板を活用」「表示板に親しむ」の、3つの柱を立て提案をする。提案の全体を表1にまとめる。

表1 提案の全体

5.2.1 表示板に注目	
A) 旧町名表示板に気づきやすくする	B) 旧町名表示板の MAP をつくる
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧町名表示板の文字を見やすくする</li> <li>・ 旧町名表示板を公園内、広場等に設置する</li> <li>・ 旧町名表示板の形、大きさ、色等を変える</li> <li>・ 旧町名表示板の根元を緑化する</li> <li>・ 旧町名表示板をライトアップする（61色）</li> <li>・ 旧町名表示板に LED ライトによる照明をつける</li> <li>・ 旧町名表示板に番号をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e - とちぎ（地域 SNS サイト）で旧町名表示板の MAP を作成する</li> <li>・ 旧町名表示板の MAP を作成し配布する</li> <li>・ 旧町名表示板の案内板を駅前等に設置する</li> </ul>

5.2.2 表示板を活用	
<b>C) 旧町名表示板の内容を知ってもらう</b>	<b>D) イベントを開催する</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>旧町名表示板に2次元バーコードをつける</li> <li>旧町名表示板に記載されている事項等を宇都宮検定の問題にする</li> <li>旧町名を解説した冊子を作り、配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォークラリーの開催（クイズラリー、スタンプラリー、旧町名表示板を探すウォークラリー等）</li> <li>まちをめぐり歩きながら旧町名表示板の装飾を市民にってもらうまち歩きの開催</li> <li>高齢者対象のシニアセミナーの開催</li> <li>旧町名表示板周辺の昔の景色を絵に描いてもらい、募集、コンテスト化する</li> </ul>

5.2.3 表示板に親しむ	
<b>E) 旧町名表示板のグッズを作成する</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>しおり</li> <li>箸入れのデザインに利用</li> <li>キーホルダー</li> <li>ストラップ</li> <li>携帯電話クリーナー</li> <li>ガチャガチャ</li> <li>パズル</li> <li>カルタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵葉書</li> <li>はんこ</li> <li>切手</li> <li>トイレトペーパーに旧町名を印刷</li> <li>お菓子に旧町名の焼印を押す</li> <li>旧町名にまつわる名物料理を考案</li> <li>旧町名をキャラクター化</li> </ul>

## 5.2 具体的な提案の詳細

提案の全体でまとめた中からいくつかをピックアップして、提案の詳細を述べる。

### 5.2.1 「表示板に注目」

旧町名表示板の存在と意義を多くの人に知ってもらうための提案である。

#### A) 旧町名表示板に気づきやすくする

##### ・ 旧町名表示板にLED ライトによる照明をつける

既存の旧町名表示板に、LED ライトによる照明を工夫し設置する。また表示板の表面にアクリル板を取り付け、表示板の上にはソーラーパネルを設置する。そうすることで経年による文字の劣化を防ぐことができ、夜にはライトアップさせることで存在感もアップする。また電源は太陽光から確保でき、追加の費用はかからないですむ。



## B) 旧町名表示板の MAP をつくる

### ・ e - とちぎ（地域 SNS サイト）で旧町名表示板の MAP を作成する

当研究会では e - とちぎ（地域 SNS サイト）を利用して旧町名表示板の設置場所を示した MAP を作成した。またマップ上から各旧町名表示板を選ぶと解説文が読めるようになっている。これにより、インターネットを利用して旧町名表示板の存在を確認することができるようになる。

## 5.2.2 「表示板を活用」

旧町名表示板を多くの人に周知してもらい、旧町名表示板を活用したイベントの開催をしようという提案である。

## C) 旧町名表示板の内容を知ってもらう

### ・ 旧町名表示板に 2 次元バーコードをつける

携帯電話を活用して手軽に情報を入手することが可能になっている。旧町名表示板に 2 次元バーコードをつけることにより、まちなかでリアルタイムで情報を入手することができる。提供する情報としては、旧町名の由来などの他に、その周辺のまちに関する様々な情報を提供することも可能となる。

### ・ 旧町名を解説した冊子を作り、配布する

【3. 旧町名表示板の概要】で述べた大工町や肴町の解説文のように、旧町名表示板の 61 基すべてに解説文は書かれている。まちによって様々な町名の由来があるが、これらを全体でまとめて読むことができれば、宇都宮の歴史を知る良い資料になる。旧町名表示板の解説文が書かれた冊子を新たに作り、配布しようという提案である。

## D) イベントを開催する

### ・ ウォークラリーの開催

4.2 の現状の分析と課題でも述べたが、当研究会では旧町名表示板を探すウォークラリーを実施した。宇都宮共和大学をスタートし、まちなかを巡り、旧町名表示板を探し歩いた。旧町名表示板どうしの距離が近いいためウォークラリーを実施しやすい。

○ウォークラリーの例：季節に合わせたまち歩き  
健康を考慮したまち歩き  
学校・学年ごとのウォークラリー  
など



写真7 ウォークラリーの様子

### 5.2.3 「表示板に親しむ」

旧町名表示板をグッズ化し、私たちにとって表示板をより身近なものにすることで、旧町名表示板に親しみを持ってもらうための提案である。

#### E) 旧町名表示板のグッズを作成する

##### ・ しおり、箸入れの作成

当研究会では実際に旧町名表示板のデザインを用いて、しおりと箸入れを作成した。

**写真8**がしおり、**写真9**が箸入れである。



**写真8** しおり



**写真9** 箸入れ

こうしたグッズを作成することで、旧町名をより身近に感じ、人々にまちの成り立ちを知ってもらうと同時にまちに愛着を持ってもらうことができると考える。

## 【6. おわりに】

当研究会では提案にあたり、宇都宮のまちなかにある旧町名表示板について調査してきた。宇都宮は過去2回戦争で焼失している。そのため昔の町名だけが残り、現状だけでは歴史がわかりにくいことが問題として挙げられる。しかし、それは言い方を変えれば、宇都宮の歴史を自分自身で想像することができ、よりまちに愛着を持つことにつながるのではないだろうか。将来、宇都宮の歴史を語り継ぐ資源があり、人々がいるならば、それは宇都宮のブランドとなりえると感じる。旧町名表示板を活用し宇都宮の歴史が再発見されることで、V-Planのテーマのひとつである宇都宮のまちなかの魅力が向上することを願っている。

最後に、提案にあたりお忙しい中ヒアリングの対応をしてくださった宇都宮市文化課の各ご担当者様を始め、ご支援、ご協力してくださった皆様に紙面を借りて深く御礼申し上げます。

#### 参考文献・参考ホームページ

- ・ 「宇都宮の軌跡《改正版》城下町宇都宮を訪ねて」宇都宮市教育委員会
- ・ 「宇都宮文化財マップ」宇都宮市教育委員会
- ・ 宇都宮市文化課のホームページ「宇都宮の歴史と文化財」[http://61.194.63.139/ext/index\\_j.php](http://61.194.63.139/ext/index_j.php)
- ・ 「e - とちぎどっとこむ」<http://e-tochigi.com/>